

# フェリス女学院

## 2008 年度事業計画書（概要）

\*\*\*\*\*

創立以来守り続けてきた、キリスト教信仰に基づき女子のための教育を行うという学院の基本理念を確認しつつ、使命達成に必要な施策を計画的に実行します。

創立 140 年を一つの節目として、長期的な展望に立ってこれまでの教学の内容を見直し、教育事業を支える財政的な基盤を安定させる努力を続けます。

具体的には、中高・大学がそれぞれ検討を進めている将来構想を学院全体の視点からまとめ、2010 年为目标としたグランドデザインの策定に向けた作業の継続や、山手 37 番地の再利用を含めた山手キャンパスのマスター・プランの基本方針を定めることなどがあげられます。

- 教学を支える財政の健全化と安定化に向けた諸施策をすすめる。
- 経営改善計画 3 年目にあたるので、これまでの成果を踏まえて着実に計画を実行する。
- 効率的な事務組織の再編を含め、研修の充実などの職場環境を整える。

\*\*\*\*\*

### 1 制度・政策に関する事項 経営・運営に関する事項

- ① 経営改善計画に則った取組み
- ② 学院グランドデザイン構想と建物施設関係の将来計画策定にむけての取組み
- ③ 人事制度の再構築にむけての取組み
- ④ 大学 学納金（施設設備費の増額）改定

施設設備関連の現状に対応した見直しとして、施設設備費を 2008 年度から年額 4 万円増額する（全学部共通）。

### 【その他 大学部門に関すること】

- 大学院人文科学研究科コミュニケーション学専攻の設置
- 大学院人文科学研究科日本文学専攻 学生収容定員数の変更（2008 年 4 月 1 日施行）
  - 博士前期課程 旧 12 名 ⇒ 新 10 名
  - 博士後期課程 旧 2 名 ⇒ 新 3 名
- 大学国際交流学部 入学定員及び編入学定員の変更（2008 年 4 月 1 日施行）
  - 入学定員 旧 185 名 ⇒ 新 194 名
  - 2 年次編入学定員 旧 10 名 ⇒ 新 4 名
  - 3 年次編入学定員 旧 15 名 ⇒ 新 6 名

【その他 中学校・高等学校部門に関すること】

- 校舎建替第2期工事着手にむけての検討

【その他 本部事務局に関すること】

- 山手地区マスタープランの策定
- 職員海外研修の導入
- コンプライアンスに対応した組織体制の検討、整備

## 2 財務に関する事項

- ① 経費削減目標と総額経費枠の設定
- ② 2008年度第2号基本金組入れ計画
  - 【大学部門】 大学キャンパス施設設備拡充整備資金計画
  - 【中学・高等学校部門】 校舎建替第2期工事建築資金計画
- ③ 借入金残高の削減と資金運用策による金融資産の蓄積推進
- ④ 減価償却引当特定資産繰入れ

## 3 施設設備に関する事項

- ① 当該年度の主な修繕案件
  - フェリスホール 外壁、内装改修、空調機更新等工事
  - 山手6号館 606教室空気改善工事
  - 緑園キャンパス バリアフリー4期工事
  - 山手10号館 外部補修、外構補修等工事（該当補助金収入を見込む）
- ② 中高 パイプオルガンの設置事業の開始

## 4 教育研究に関する事項

### 【大学部門】

本学は「For Others」の建学精神に基づいてリベラルアーツ型を基本としながらも大学院教育にも重点を置く大学であり、アカデミック・アドバイザー制度等ひとりひとりの学生を大切にする少人数教育を行っている。語学教育を重視し、様々なカリキュラムの展開により国際人の育成に努めるなど、自立した女性を社会に送り出したいと願っている。

- 1 将来計画委員会
- 2 FDへの取組み
- 3 外部評価（大学評価）への対応
- 4 大学院新専攻設置等授業改革
- 5 情報システム更新に向けての検討
- 6 多文化共生をめざす教育連携
- 7 国際学生交流会館からシェアハウスへの移行
- 8 障がい学生の授業保障への全学的取組み
- 9 卒業生キャリア形成支援
- 10 在学生の社会人基礎力向上支援

2008 年度の特徴 G P ・ 現代 G P （継続）概要は次のとおり。

●特色 G P

読書運動プロジェクト「フェリスの 1 冊の本」 2008 年度交付予定額約 1,306 万円

●現代 G P

若い女性の視点からの音楽コンテンツ創造 2008 年度交付予定額約 1,037 万円

【中学校・高等学校部門】

本校の長期的課題と目標は、これまで培ってきたキリスト教信仰に基づく教育を、中高 6 年間を通して高めていくことであり、中等教育レベルにおける「教養主義」を標榜する。多様な領域を深く学ぶことの意義は、卒業生のその後の社会での活躍をみれば明らかである。一人ひとりに与えられたタレントを育成しつつ、人格形成にもつとめている。心身ともに成長する十代という時期にふさわしい将来への「種まき」としての教育である。これは、本校において 130 余年にわたり継承されてきた。このような目標にむけて、2008 年度学事関連行事を運営実施する。なお、2007 年度に初めての試みとして、小学 6 年生とその保護者を対象とした、学校見学会を 9 月に開催したが、2008 年度は、これを 7 月開催として実施する計画を立てる。

5 その他の事項

募金活動の推進 （維持協力会 教育充実資金）

以 上